ISSN 0289—9302

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN

ΚΟΣΜΟΣ

コスモス No. 91 1990 秋

特集 ライフワークを見つけよう

柴崎美千代さん画（文学部国文学科４年）

特集 ライフワークを見つけよう

ライフワーク。広辞苑をひもとくと，「一生をかけてする仕事や事業」とある。それ程大袈裟ではないが，しかし，単なる趣味とも違う『**自己表現**』。それがライフワークではないでしょうか。

先達たちの例をみると，ライフワークの原点は青春時代にあるようです。青春時代の真直中にいる皆さんに“人生80年時代のライフスタイル”としてライフワークをもつことをお勧めします。

でも，「何をテーマにしたらいいのか分からない」という貴方。どうぞ，図書館へお出で下さい。書庫の中はテーマの宝の山。ただし，探しだして研きをかけるのは**あなた自身**です。

新人類へ，自分探しのすすめ

堀江　明子

以前，ふと手にした少年向けの本の中の一節に愕然としたことがあった。その本とは，阿部謹也著『自分のなかに歴史をよむ』であるが，その中に著者が大学の卒論のテーマを探す場面があった。その時，著者の大学の指導教授は，著者に向かって「それをやらなければ生きてゆけないというテーマを探すのですね」と言われたというのである。

「**それをやらなければ生きてゆけない**」テーマ。**おそらくそれがライフワークということになるのだろう**。そのような妥協のない言葉を，大学の卒論について述べられたこの教授に，何ともいえない驚きと畏敬の念をおぼえた。当時大学院生で，ほとんど惰性で論文のテーマを決めていた私にとり，この言葉は簡単に忘れ去れないものを含んでいた。

しかし，この言葉を噛みしめているうちになんとも悲壮な気持になってきた。どうもこの言葉は，新人類のはしりである私には少し重すぎるようである。

その後思いついて，この言葉を「それをやらなければ自分を生かせないテーマ」と読みかえてみた。この読みかえによって，いろいろなものが見えてきたような気がする。

言うまでもなく，人にはそれぞれ性格がある。適性もある。「どうしてもこうしたい」というこだわりもあるだろう。これらのことが総合されて，「その人が最もよく生かされる道」が決まってくるように思う。これらのこと，つまり「**自分とは何か**」**を追求していくことが，学生の間に必要なのではないか**。

そのような「自分探し」をするときに大切なのは，今までの自分の殻を破っていくことではないだろうか。一見逆説的だが，それは自分の知らない自分を発見していくことだからである。思い切ってチャレンジしていく過程で，「自分はこんな奴だったのか」と驚くこともあるだろう。その中で，自分を見つめ，磨きだすことができれば，それがライフワーク探しの第一歩となるはずである。

（経済学部講師　ほりえ・あきこ）

好奇心を第一に

今田　好彦

いつのころか，もう忘れてしまった。たぶん大学卒業前後だったろう。僕は三つの夢，あるいは憧れを持った。中国に行くこと，テレビに出ること，女子大の先生に30代でなることの三つである。

テレビは早かった。29歳で解説番組のレギュラー，だが，ヒゲをはやしたため一年弱で降ろされた。女子大はぎりぎりの38から39のとき非常勤でマスコミ論を持った。

中国に関しては，ちょっと事情が違う。最初に行こうと思ったのは大学一年の時。当時は金とヒマがあっても，中国へは行けなかった。三つの夢の中では一番最後，13年目で実現した。1974年のことだ。以後毎年一回は訪中したし，8年半は住むことになった。

夢が実現すると，また，何かやろうと新たな闘志が沸いてくる。そこで抱いたのが，自分の本を書くこと。

実は，本は何冊も書いていた。ゴーストライターをやっていたわけだ。そして，これは金にもなった。二十数万部のベストセラーもあり，いまでも売れている。中には取材の過程で著者から，共著にしようとありがたい言葉もいただいたが，自分の強い関心分野のもので処女出版したかったので，丁重にお断りしたことがある。

関心分野は，20年ほど前から四つに絞られてきていた。地理的に中国，朝鮮，沖縄。それに，僕が長崎で被爆したから原爆・被爆問題，この四つである。そして出版したのが『現代中国百景』(中公新書)。

僕の半生を振り返ってみると，好奇心だけでやってきたようだ。だが「中国」だけはどこにも顔を出している。

さて，また夢が出る番だ。本が欲しかった少年時代の夢が実現，自宅の書庫・倉庫，研究室に溢れたものを上手に捨てる夢である。

(文学部教授　いまだ・よしひこ)

〝殆ど考えてない人の意見〟

勝亦　　徹

締切はとうに過ぎてしまったが，原稿はできない。なぜ書けないか，それはライフワークについてこれまで全く考えたことがなかったからなのだ。

こんなことを書くと言い逃れのようですが，それは単に私がいいかげんな人間であるからというだけではなく，首都圏とその周辺のサラリーマンの殆どが，ライフワークについて真剣に考える余裕がないからです。一部の経済的に恵まれた人あるいは，定年のない職業についた人以外は，ライフワークを見つける余裕や，ライフワークの下地を作る暇はない。扶養家族を持つ一般人にとって，生きてゆくための収入を得る仕事以外にライフワークを見つけることはかなり困難です。この人たちは自分自身と妻子そして100㎡程の住処のために一生の殆どの時間と知力，筋力，さらには肝臓，腎臓その他各種臓器の力を最大限に使ってしまい，ライフワークについて考える暇など定年間際までありません。ですから，**もし若いみなさんが将来ライフワークを持った立派な老人になりたいなら，いまから長期的展望に立って職種，生活場所などを考える必要があります。**

私についていえば，ライフワークとして今回とりあえず，次の候補を検討してみました。

①単結晶成長の研究，②温泉めぐり

①は職人芸的な技術が必要で歳とともに味わいが出て来るし，大学教員としてもふさわしいのでライフワークにしましょう。②は一歩間違えると単なる観光旅行になってしまうの

でライフワークと呼ぶ領域まで内容を高めることが困難だが，もしこんなものをライフワークにできるなら，体も楽だし大変嬉しい。現在，①と②を統合するために秘湯と単結晶成長との関連性について検討を進めている。

最後に，ライフワークについて考える機会を与えて下さったコスモス編集委員会の皆さんに感謝致します。

（工学部講師　かつまた・とおる）

お茶のお菓子の話

齋藤　恒夫

昔，教職員寮にいたとき同僚に誘われたのが，お茶を始めたきっかけであった。一般的に男性は道具の取合せなどおもしろい工夫に楽しみを求めていく。

私の場合は，お茶につきもののお菓子に興がゆき，自分なりに作ったりもする。

4年前の3月に水微温む武蔵野をテーマにして茶席を設けた。日の出の暖かさをイメージし懐石の八寸に越生（おごせ）の銘酒「来陽」を用いた。お菓子は「河越太郎」を手作りした。これは，白餅とよもぎ餅を重ねて薄く伸ばし，小豆餡を巻き込んでのり巻状とし，輪切りにしたものである。此の銘の因縁は此のよもぎにある。**源頼朝の家来である河越太郎重頼の下女が主人のために摘んだであろう館近くの田圃にこだわり採り集めた。**現在，館跡に当学の元職員である米山大恵氏の生家である常楽寺が建っている。

もう一つのお菓子作りの思い出は，東洋大学創立100周年の工学祭で用いたお菓子の事である。「鶏声台」「100周年」という銘のお菓子を茶道同好会創設者の一人甲部正章君と作った。大変手に入りにくい和三盆（砂糖）を用いて，校章を形取り「鶏声台」と銘を付けた。この和三盆は，私のお茶の仲間である東松山の和菓子屋「清晨庵」の若主人に無理矢理頼み込んで手に入れたのである。

「100周年」というお菓子は，山栗で作った。川越キャンパス内の林で山栗を朝早くから拾い，他の人と取り合い，雨の中も厭わず拾い集めた。これは小粒で虫食いだらけだが，とっても甘くおいしいものである。この山栗を大鍋で茹で，渋皮をむき，つぶし，裏漉しをし，それに水飴を入れ茶巾絞りにした。水飴の配合を甲部君と色々吟味して1/5が良いことを見つけだした。銘を「100周年」としたのは，開発の名の下にキャンパスの林が年々切り払われ，いつか栗を拾えなくなった時100周年にはたくさん拾えたという事を思い出して欲しいと願うからであった。

今年も工学祭の茶席で「鶏声台」を召し上がっていただきます。一服どうぞ。

（工学部講師　さいとう・つねお）

（注）　本文中，ゴジック体は編集委員会で付けました。

≪表紙の絵≫

秋号の表紙はいかがですか？　今までと少し趣が違うでしょう。実はコスモスの表紙としては史上初の“切り絵”なのです。

“秋らしさ”を表現したいと思っていた編集委員会としては，まさにピッタリの作品と言えます。作者である国文学科4年の柴崎美千代さんは，学生生活最後の思い出として応募してくれました。

なお，学報第106号で既報のとおり第1回入選者である奥田美智子さんへは，去る7月18日，白山図書館において山崎館長から賞状ならびに記念品を贈り，感謝の意を表しました。

読書の秋，いや食欲の秋を楽しんでいる皆さん。ライフワークを探しながら，コスモスの表紙にもトライしてみて下さい。

さあ，次はあなたの番です。

ブックガイド

ライフワークを見つけよう

ライフワークをもっている人々の本

伊丹十三　女たちよ！　男たちよ！　子供たちよ！　1981年　文庫　460円　文藝春秋

赤瀬川原平　超芸術トマソン　1987年　文庫　780円　筑摩書房

江國　滋　にんげんスケッチブック　1988年　1339円　毎日新聞社

南　伸坊　路上観察ファイル　1989年　910円　実業之日本社

森　伸之　東京女子高制服図鑑　'89—'60年度版　1989年　1240円　弓立社

和辻哲郎　古寺巡礼(改訂)　1947年　2780円　岩波書店(文庫もあり)（白，朝，工）

横澤　彪　しごとが面白くなる　シェイクスピア　1988年　1350円　ダイヤモンド社

山口　瞳・赤木駿介　日本競馬論序説　1986年　1030円　新潮社

小椋　佳編・永田　萌絵　ポッケにいつもお星さま＜抒情詩集シリーズ＞　1977年　700円　サンリオ

小池邦夫　絵手紙入門　1988年　2575円　日貿出版社　（朝）

吉田桂二　日本の町並み探求＜建築の絵本＞　1988年　2060円　彰国社　（白）

下島正夫編　マッチラベル—明治・大正・昭和・燐票博物館—　1989年　3900円　駸々堂出版

須川薫雄　日本の火縄銃　1989年　5000円　光芸出版

栃折久美子　手製本を楽しむ　1984年　3605円　大月書店　（白，朝）

野田知佑監　カヌー・リバーツーリング入門　1989年　1200円　小学館

西野皓三　マンガ西野流呼吸法入門　1985年　1000円　徳間書店

ヒサクニヒコ　恐竜図鑑　1985年　文庫　520円　新潮社

堀源一郎　書斎の小道具たち　1982年　830円　情報センター出版局

橋本　治　男の編物〔新版〕　1989年　1000円　河出書房新社

林　美一　江戸枕絵の謎　1988年　文庫　600円　河出書房新社

日比野克彦他　アートラッピング１・２　1987年　各1640円　誠文堂新光社

宮脇俊三　時刻表２万キロ　1978年　1250円　河出書房新社（文庫もあり）　（白）

林　丈二　マンホールのふた　日本篇　1984年　2987円　サイエンティスト社（白）

ライフワークを見つけるための本

立花　隆　「知」のソフトウェア　1984年　講談社現代新書772　550円　（白）

渡部昇一　知的生活の方法　正・続　1976，79年　講談社現代新書436，538　各550円　（白，朝，工）

山本恒夫ほか　学習情報の提供と活用　1989年　1500円　実務教育出版（白）

夏村波夫　ライフワーク・テーマの探し方　1987年　1500円　ダイヤモンド社（白）

「図書」編集部編　書斎の王様＜岩波新書＞　1985年　494円（白）

川喜田二郎　発想法　正・続　1967，70年　中公新書　560，680円　（白，朝，工）

千尾　将　本を書くための本　1986年　実務教育出版　1236円

情報アクセス研究会編著　現代人のための情報・文献調査マニュアル　1990年　青弓社　2060円

なお，このガイドの作成にあたっては，夏村波夫氏の「ライフワークテーマの探し方」を参考にさせていただきました。また，本の価格等は「日本書籍総目録1990年版」を参照しました。

（白）（朝）（工）は所蔵館を表わします。

蔵書探訪 1

千葉文庫

広瀬　英彦

朝霞図書館に「千葉文庫」と題するコレクションがある。東洋大学名誉教授千葉雄次郎先生が寄付された蔵書を収めたものである。

千葉先生は，朝日新聞海外特派員，編集総長，東京大学新聞研究所長，NHK経営委員長，日本新聞学会会長，日本エッセイストクラブ理事長，会長など，マスコミ関係の要職を重ねられたことでもわかるように，わが国マスコミ界の重鎮であるとともに，マスコミ研究の指導的地位にあった方であり，特にマスコミ法制研究の権威として高名である。

東洋大学では社会学部長，理事長をつとめられ，今日の社会学部の基礎を築かれた先生である。

この「千葉文庫」に収められた文献は，和書3,743冊，洋書2,964冊の合計5,256冊におよぶ。その内容はマスコミ研究の全領域にわたるが，特に新聞記者の体験的ジャーナリズム論，マスコミ企業の社史の類がそろっているほか，先生の得意とされたドイツ語の新聞論やマスコミ法制の文献が貴重である。また放送に関する文献も豊富である。

現場ジャーナリストの考えを知りたい、マスコミの歴史を原資料にあたって調べたい，マスコミ理論の時代的展開をフォローしたい，という人には，貴重な発見があるはずである。ぜひ活用してほしい。さらに，マスコミに限らず広くさまざまな領域にわたる内外の文献が収められているので，専門を問わず利用価値が高い。どんな文献があるかを知るには，図書館で作成した「千葉文庫目録」がある。まず，この目録の一覧をお勧めする。

千葉先生は91歳の天寿をまっとうされ，さる8月29日に逝去された。

（社会学部教授　ひろせ・ひでひこ）

蔵書探訪 2

杖下文庫

阿部正次郎

元東洋大学名誉教授杖下隆之先生が御逝去なされてから，はや8年を過ぎようとしております。先生は昭和2年4月，東洋大学予科及び専門部の中国哲学・文学の講義を御担当なされてから，定年にて御退職なされるまでの30有余年の間，文学部中国哲学文学科及び大学院文学研究科中国哲学専攻の両主任をはじめとして，大学院文学研究科委員長も数期つとめられました。中国の古詩に，「去る者は日に以て疎(うと)し」とか，「生年は百に満たず」という，人生の無常に関する詩句がありますが，先生は満79年の高齢をもって他界なされましたが，わたくしには今でも先生の在りし日の，眼鏡の奥底から光る鋭いまなざしの中に，謙虚でしかも正義感から迸る強い信念のこもった，ものやわらかな口調で話される面影が眼前から離れることはありません。先生の御逝去の後，御遺族のご厚志により，膨大なる先生のご蔵書一切を，東洋大学図書館に御寄贈下され，中国学に携わる者にとってはもちろんのこと，文学関係の学術を研究する者にとっても，その利用に供される価値を有することはいうまでもありません。このたび，本学図書館職員各位のご努力により，日頃の多忙な業務にもかかわらず整理を完了していただき，本学図書館収蔵の各種文庫に続いて，「杖下文庫」として，その目録が刊行される運びとなりました。本文庫が先生と同学の人びとだけにとどまらず，広く学内・外の斯学に励む人びとにも利用され，役立てられることを期待すると共に，杖下文庫が末永く斯学の発展に利用されることを祈念してやみません。このようなわけで，ここに杖下隆之先生の「杖下文庫目録」の刊行を紹介いたした次第であります。

（文学部教授　あべ・しょうじろう）

蔵書探訪 3

館蔵黄檗一切経由来記

山内　四郎

哲学館時代以来伝えられ，その由緒が明らかな浩瀚な叢書に黄檗一切経がある。本書については，『東洋哲学』第2編第4号（明治28年6月2日刊）に執筆者不明の「哲学館図書館」なる一文がある。それには，「哲学館にて予てより専門科を設立せんため計画する所あり，爾来井上館主は一身此事に従ひしが，尽力の効空しからず，（中略）又館内には一大図書館を設立し，東洋学即ち国学仏学漢学に関する書籍を洽く聚集して，脩学上に一層の便宜を与へんとする由，右図書館設立につき，第一に現今予約出版中なる黄檗版一切蔵経六千九百三十巻を購入して室内に備付けんとす，されど右経は高価なるを以て，此際天下有志者の寄附を募り，金員の多寡に応じて価格相当の経帙に応募者の姓名を記し，永く本館に保蔵する筈なりと云ふ[注1]」と記している。このことは，哲学館内に図書館を設立し，東洋学の図書を収集し，その第一として黄檗一切経を購入し，そのための寄附を募り，金額に相当する冊数に寄附者の姓名を記入する旨を述べているのである。

本書が黄檗版一切経である証拠は，合刻されている北蔵大明三蔵聖教目録（題簽書名）に，「大明太宗文皇帝御製蔵経讃（永楽八(1410)年三月初九日）」と「御製蔵経跋尾(永楽九(1411)年閏十二月　日)」と「御製続入蔵経序（大明萬暦十二（1584）年十一月二十日）」があり，「進新刻大蔵経表（延寶戊午六（1678）年七月十七日　上表）」があり，さらに「上大蔵経疏（中略）天和辛酉（1681）年　月　日沙門鉄眼和南　具疏」と記されているからである。このことは，明の太宗（永楽帝）に刊行した北蔵本を，同じく万暦年間（1573—1619）に覆刻[注2]したものを使用して，さらに黄檗山万福寺の僧銀眼によって延宝六年七月にこれの覆刻を開始，天和元年完成したことを意味している。すなわち世間に伝えられる定説通りである。また該経が哲学館以来のものである理由は，「哲学館印」「円了文庫」「甫水井上氏蔵」「東洋大学図書館之印」などの朱印が押捺され，哲学館蔵書，寄附者，年月，などを記入できる黒印が押され，それぞれ，住所，姓名が記入され，第1冊目「大般若波羅蜜多経（玄奘訳）」の見返しに，「明治廿八年六月入」との記録があるからであり，他冊も住所，姓名こそ異なれ，同様の処理がなされている。まさに「哲学館図書館」の記事と一致すると言わなければならない。（もっとも，これは全書になされた訳ではないがかなりな数にのぼっている。）

この書は，各冊の小口に経文名，巻数，帙の数などが毛筆にて記入してある。この作業を行った人物の名前が判明している。後に第12代学長となった高嶋米峰である。『高嶋米峰自叙伝（昭和25年11月15日刊）』に収録する「初めて貰った月給（記年昭和17年）」に，高嶋学長は，明治29年7月に哲学館を卒業し，同年9月15日から井上（円了）先生の宅で仕事をすることになり，先生畢生の大著『佛教哲学系統論』第1巻『外道哲学』の著作の助手をはじめ各種に亘る仕事に従事したが，「中でも，つらかったと思ふのは，黄檗版一切経全部の，小口書をしたことであつた」と述べているのである。すなわち，井上円了によって購入され，高嶋米峰によって小口書をなされた黄檗一切経は，脈脈と受け継がれて今日に至っているのである。（請求記号183：O）

注1　「東洋学振興策并図書館設立案」井上館主講演（記年明治28年6月1日）。『東洋哲学』第2編第5号（明治28年7月2日刊）の中にも同様の記事の掲載がある。

注2　覆刻とは，従前の版本を版下として版木にはりつけこれを版下として彫版刊行したもの。

（図書館事務部次長　やまうち・しろう）

図書館 あ・ら・かると

★学園祭期間中の利用について★

各館とも学園祭期間中は開館時間等が変更になる場合があります。掲示にご注意下さい。

★千葉雄次郎名誉教授ご逝去★

本号記事中にもあるように，「千葉文庫」の寄贈者である千葉雄次郎名誉教授が，さる8月29日に逝去されました。

先生のご著書「知る権利」（東京大学出版会，1972年）他が図書館に所蔵されております。

心よりご冥福をお祈り申し上げます。

★朝霞知る知る見知る★

●まずは触れてみよう

CD—ROMを設置しました。現在あるソフトは，現代用語基礎知識，電子広辞苑など5種類です。利用の詳細についてはカウンターまで。

●入口正面に“蔵書紹介”コーナーを設けました。テーマを決めて所蔵資料の展示を行っています。皆さんの知的興味を刺激する様なテーマで図書館の入口を飾ります。

★工学部知る知る見知る★

●洋雑誌の展示場所が，物理・数学関係は閲覧室に，その他の雑誌は教職員閲覧室にと一部変更になりました。教職員閲覧室を利用される場合は，カウンターに声をかけて下さい。

●当館に所蔵していない本の購入希望がありましたらカウンターにお申し出下さい。

●軽読書コーナーには「旅行ガイド」や「マンガで見る古典文学」など幅広く揃えてありますのでご利用下さい。

★白山知る知る見知る★

軽読書コーナーの秋

●みなさんは，小学校時代の学級文庫を覚えていらっしゃいますか？ そう，両手の人さし指で口を横に拡げて言いあった「学級文庫」。楽しくて読み易い本がヒョッコリ置いてあったりしたものです。

さて，何を隠そう東洋大学の白山図書館にも，そのような読み易い本が備えてあるのです。場所は通称3閲，みなさんに親しまれている閲覧室です。そこに，軽読書コーナーはあります。

具体的にどのような本が置かれているかと申しますれば，「本を読む女」，「明日があるなら」，「そんな恋ならやめなさい」等々。それぞれ，林真理子，S．シェルダン，笹沢左保の各氏が書いております。その他にも，落合信彦氏の「国際情報 Just Now」，柴門ふみさんの「恋愛論」などなど……。

コーナーに行けば，きっと一晩で読み切ってしまうような，そんな本が見つかることでしょう。読書の秋です。ぜひ，図書館まで足をお運び下さい。

編集後記

今まで毎号，貴重図書の紹介をしてまいりましたが，本号より随時，それ以外の蔵書についても紹介する記事を掲載していく予定です。各個人文庫，あまり知られていない図書，その他いろいろなものを<蔵書探訪>と題して，ご紹介いたします。

TOYO UNIVERSITY LIBRARY INFORMATION BULLETIN ΚΟΣΜΟΣ
1990 秋 (No. 91) 1990年10月30日発行 編集：コスモス編集委員会 発行人：山崎正巳 発行所：東洋大学附属図書館 〒112 東京都文京区白山5丁目28番20号 Tel. 03(945)7314 ©東洋大学附属図書館 1990